

園だより 4月

主よ、あなたの道をわたしに示し、あなたに従う道を教えてください。

詩編 25 編 4 節

ご入園・ご進級おめでとうございます。

引き続きコロナ禍の中始まった2021年度ですが、世の中の春の様子はコロナ禍前と
なにも変わらず、園庭の桜の花には、桜色の満開、春風に乗りがらの花吹雪、そして
葉桜の緑と、私たちに心穏やかな時が与えられています。昨年度子どもたちが植えた
プランターのチューリップたちも、子どもたちを待ち望むかのように茎を伸ばし可愛い
花を精一杯に咲かせています。また、石島バス停の植え込みに、この春もちゃんとつく
しが伸びていました。その側で今年は日本タンポポも見つけました。

神様はコロナ禍であろうが無かろうが全てに成長する「いのち」を備えてくださって
います。そんなエネルギーが溢れている4月から「いのち」を輝かす子どもたちとの園
生活をスタート出来ることは本当に嬉しく、感謝の気持ちでいっぱいです。コロナ禍に
対応する生活習慣を徹底し、様々に迅速な対応をしながら、今年度も『子どもたちの「今」
の育み』に変わらない想いを注いで1年間を過ごして参りたいと願います。

来週から始まる幼稚園での「遊びの生活」。子どもたちが様々に想いを廻らし、体を
動かし、経験を通して学ぶ場である幼稚園の環境を豊かに整え、保育者はそれぞれの
子どもたちの想いに共感し、寄り添い、見守り、自ら「命を輝かせる日々」の実現に
保育を展開して参ります。

当たり前のことが当たり前にできない状況であった昨年の1年間。けれども成長し続
ける子どもたちのエネルギーを目の当たりにしていた保育者にとって、その状況にその
まま沿うことは困難でした。止まること無く伸びようとする子どもたち、いえ伸びてい
く子どもたちの成長をどの様に育てていくことが大切か、昨年度の大きな課題でした。
そしてもっとも大事に思う『子どもたちの「今」の育み』に視点を置いて考えることで、
幼児期の育みにとって必須であると展開し続けてきた江東YMCA幼稚園の保育を、出来
得る限り工夫対応し継続することが使命と、子どもたちと共に過ごして参りました。
その日々には保護者の皆様のご理解とご協力が不可欠でした。今年度も昨年同様保護者
の皆様と想いを共有し、共に子どもたちの成長を見守って参りたいと願っております。

神様のゆるぎない御手に支えられつつ...宜しく願い申し上げます。

園長 駿河 幸子